

[平成29(2017)年1月20日]

日本経済新聞(夕刊)

岩手医大は20日までに、一人一人のゲノム(全遺伝情報)を調べ、遺伝子の塩基配列の個人による変異の違いによって、脳梗塞を発症する危険性を予測する手法を開発したと発表した。危険性の高い配列の人は、低い人に比べ2倍程度発症しやすいという。清水厚志特命教授は「一人一人が発

## 脳梗塞発症リスク 遺伝子変異で予測

**岩手医大が開発**  
ごとに約36万人を調べ、発症のしやすさを予測する手法を開発した。

岩手医大は、脳梗塞の患者約1万3千人と、健康な人約2万6千人のゲノムを解析。配列が「ただけ違い」多型」と呼ばれる変異を1人ごと

岩手医大は、脳梗塞の患者約1万3千人と、健康な人約2万6千人のゲノムを解析。配列が「ただけ違い」多型」と呼ばれる変異を1人ごと

岩手医大は、脳梗塞の患者約1万3千人と、健康な人約2万6千人のゲノムを解析。配列が「ただけ違い」多型」と呼ばれる変異を1人ごと